

授業概要

平成 24 年度より全面実施された中学校学習指導要領を土台として、国語科教育の在り方も改善される。新たに取り入れられた「話すこと・聞くこと」の中での話し合う力の育成、伝統的な言語文化として古典に一層親しむ力の育成が強化され、教科教育法としても改善が求められている。

小学校6年間の積み上げの上に中学校での基礎的・基本的な内容の確実な習得を目指し、各領域の指導事項を具体的な観点から指導の在り方を構築する授業を展開する。

授業では、より具体的な内容で実践的なレベルでの取り組みを多様化して、実の場として位置づくように参加型の授業をする。

授業計画

第 1 回	中学校入門期の指導法(1)・小学校6年間の積み上げ・中1教材から読み方の基礎基本
第 2 回	中学校入門期の指導法(2)・話し方、聞き方、話し合い方の具現化 ・対話・話し合いの実際
第 3 回	「話すこと・聞くこと」の系統性の具現化(1)・中学校1学年で身につけるべき内容と指導法
第 4 回	「話すこと・聞くこと」の系統性の具現化(2)・討議法によって論理的思考を考える
第 5 回	「読むこと」の系統性の具現化(1)・物語を読み解く活動
第 6 回	「読むこと」の系統性の具現化(2)・説明的文章の実際、指導法
第 7 回	「読むこと」の系統性の具現化(3)・文学的文章を読む活動
第 8 回	「書くこと」の系統性の具現化(1)・書くことの基本 取材・構成・記述・推敲・交流の在り方
第 9 回	「書くこと」の系統性の具現化(2)・立場を決めて意見を述べる
第 10 回	伝統的な言語文化の具現化・古典に親しむ
第 11 回	「書写」の実際・硬筆・毛筆の基本的な考え方・行書の基礎の実際
第 12 回	指導案の書き方・指導案の実際と書き方・教材の選定に向けて
第 13 回	中学校国語科模擬授業実践(1)・模擬授業実践・授業に対する意見交流と授業の見方、評価
第 14 回	中学校国語科模擬授業実践(2)・模擬授業実践・授業に対する意見交流と授業の見方、評価
第 15 回	国語科教育法 I を振り返る・各領域の基礎的・基本的な内容の具体的なイメージの理解
第 16 回	レポート提出 まとめ

到達目標

中学校学習指導要領で示されている国語科における各領域の指導事項を基本としてその具体的な内容を理解して模擬授業につなぐことを目標とする。

履修上の注意

現在の国語科の在り方について国語科解説書を通して理解する。中学校での指導の在り方として基礎的・基本的な内容の確実な習得を生徒に身につけさせるために、どのような授業改善が求められているかを念頭に置いて授業に臨んでほしい。「書くこと」の多様化の実践を取り入れているので日頃より文章力向上に努めてほしい。なお、模擬授業の機会を増やして実践力をつける。

予習復習

- ・国語科指導書を熟読して、系統表を作成し、具体的な場面を想起して指導事項を理解すること
- ・教科書などを読み、新たな教材等に関心をもつこと ・ノート整理をして復習に役立てること

評価方法

授業内での学習活動(30%)及び、授業内の提出物(40%)、授業の達成目標の達成度を課題レポート(30%)によって評価する。

テキスト

テキスト：『中学校学習指導要領解説書国語編』（文部科学省）

テキスト、参考文献等については、授業内で指示する他、適宜推奨図書を紹介したり、必要な資料を配布したりする。